

小学校国語科における自ら学習を調整する児童の育成

—児童が自ら計画し、学習を進めていく

「ひとまとまりの活動」の設定—

研究構想図

長期研修員 川島 良隆

ひとまとまりの活動

単元の「追究する過程」に、複数の単位時間にわたって、児童が試行を繰り返しながら課題解決に向かう活動を設定

活動の計画や
単位時間のめあてを
児童が立てることで、
学習を調整しようと
する力が高まります。



手立て(1)

「ひとまとまりの活動」全体を見通した計画

手立て(2)

「ひとまとまりの活動」における
各単位時間のめあての設定

児童のワークシート例

単元の課題：単元で身に付ける力に向かうための言語活動

単元の課題と活動のゴールを
見通してめあてを立てれば
よいのかな。



① 活動1回目
の計画

② 活動2回目
の計画

③ 活動3回目
の計画

④ 活動4回目
の計画

めあて①： 活動1回目の計画を生かしてめあてを立てる
ふりかえり①： 活動1回目の振り返りをする

前回の計画を見てめあてを決めよう。

② 活動2回目
再計画

③ 活動3回目
再計画

④ 活動4回目
再計画

前回の活動を振り返って、
このあとの計画を見直そう。



めあて②： 活動2回目の計画を生かしてめあてを立てる
ふりかえり②： 活動2回目の振り返りをする

前回の計画を見てめあてを決めよう。

③ 活動3回目
再々計画

④ 活動4回目
再々計画

前回の活動を振り返って、
このあとの計画を見直そう。



めあて③： 活動3回目の計画を生かしてめあてを立てる
ふりかえり③： 活動3回目の振り返りをする

活動のゴールに届くように
これまでの活動を振り返って、
最終時間のめあてを決めよう。

④ 活動4回目
まとめの計画



単元の課題に沿って次時以降の計画を見直し、
次のめあてにつなげることを繰り返します。

めあて④： 活動4回目の計画を生かしてめあてを立てる
ふりかえり④： 活動4回目の振り返りをする

毎時間自分でめあてを立てて、
活動のゴールに到達できたぞ。



活動のゴール： 単元で目指す力を身に付けた児童の姿

自ら学習を調整できる児童

ひとまとまりの活動 全12時間中の第5時～第10時

手立て(1) 「ひとまとまりの活動」全体を見通した計画

単元の課題が解決できるよう、活動全体の計画を立てたことで見通しがもてました。



単元の課題と活動のゴールを見通して、計画を立てる

①1の場面の続きと、2の場面に登場人物の気持ちを考えながら書き込む。音読する。	②音読を聞き返す。3の場面と4の場面に登場人物の気持ちを考えて書き込む。	③5の場面と6の場面に登場人物の気持ちを考えて書き込む。	④5の場面と6の場面を聞き返して2、3、4の場面と比べる。	⑤直したり、読み返したりする。	⑥直したり、読み返したりする。
---	--------------------------------------	------------------------------	-------------------------------	-----------------	-----------------

手立て(2) 「ひとまとまりの活動」における各単位時間のめあての設定

活動全体を可視化して、自分の学習の進捗を捉え、単元の課題に沿っためあてを立てる

めあて①： 書くときは毎回そうだけど、登場人物の気持ちを考えて書き込む。台本をもとに音読する。	ふりかえり①： 音読はできなかったけど、2の場面までの台本が書けた。	2の場面まで台本ができたから、今日はその場面の音読と聞き返しをしよう。登場人物の気持ちを読み取ることが大切だな。
②1の場面と2の場面を音読して、聞き返す。書けたら、3の場面に書き込む。	③ 4、5の場面を書く。	
めあて②： 1と2の場面の登場人物の気持ちを考えながら、読み方に気を付けて読む。	ふりかえり②： 計画どおりにできた。音読も上手いと思った。	前回と同じように、続きの場面の登場人物の気持ちを読み取ろう。
③ 4、5の場面を書く。	④ 3、4、5の場面を音読して聞き返す。	
めあて③： 4の場面の登場人物の気持ちを考えて読む。	ふりかえり③： 4、5の場面の書き込みもできたし、4、5の音読もできた。	3の場面を音読したら、登場人物の気持ちがよく分かった。自分が劇で音読する6の場面と比べてみると、もっとくわしく登場人物の気持ちが想像できるかな。
④ 3の場面を音読する。6の場面を書く。	⑤ 全部読む。	
めあて④： 3の場面と6の場面の登場人物の気持ちを比べて読む。	ふりかえり④： 全部書いて、読み終わった。全部、練習したのをつなげて聞き直した。6の場面は大切なワードがたくさんあった。	6の場面を読んだら、大切な表現がたくさんあることに気付いた。1の場面から、文章の表現を見直してみよう。
⑤ 全部の場面を通して読む。	⑥ 最終確認。	
めあて⑤： 全部通して登場人物の気持ちなどを見直す。	ふりかえり⑤： みんなの音読を聞いたら、とても上手だった。	私が担当する6の場面を、友達の読み取りも参考にして音読し直した。音読を通して、登場人物の気持ちをくわしく想像することができた。
⑥ 6の場面を読み直す。		
めあて⑥： 他の場面と比べながら、6の場面を読み直す。	ふりかえり⑥： たくさん読めた。工夫して読んだら、最初より雰囲気が出た。	

活動のゴール：登場人物の気持ちの変化と場面とを結び付けて、くわしく想像できる

【成果】

「ひとまとまりの活動」全体を見通して計画を立て、単元の課題に沿ってめあてを立てる活動を繰り返したことで、児童は自分の学習を調整しながら、課題解決することができた。

【課題】

計画を修正して次の活動につなげることが困難な児童に対して、単元で身に付けさせる資質・能力に沿ってめあてを考えられるような支援を、準備しておく必要がある。

【提言】

主体的・対話的で深い学びの実現のために、「ひとまとまりの活動」を設定し、児童に自ら学習を調整する力を育成しましょう。